

# WCS 報告書

堺フェニクスロータリークラブ

会長 田中真琴

国際奉仕委員長 吉岡宏明

報告(2002~3年度会長) 岡本勝士

2005年5月27日『ロータリー100周年記念事業 4クラブ合同世界社会奉仕』プロジェクトの完成記念式典にクラブを代表して岡本勝士が出席してまいりました。

タイ語は勿論英語も理解できない私ですが、子供たち、保護者の皆さん、学校関係者から喜びの笑顔で歓迎を受け、改めてロータリー活動のすばらしさに感動いたしました。式典においては、各会場において、学校長、タイ文部省関係者、ロータリークラブ代表、工事関係者の皆さんのスピーチでこのプロジェクトに対する思い、苦勞話が話されていたようですが、タイ語がわからない私、雰囲気は理解できたとしても、すべてをお伝えすることはできません。そこで、写真に少しコメントを加え皆さんに報告させていただきます。(固有名詞の読み違い等はロータリーの友情に免じお許しください)

なお、ルンピニ RC より当地区の『100年の森林』に1本分のご寄付をお預かりいたしましたことお伝えしておきます。

## 1. 現地調査

今回のプロジェクトは、2004年12月17日、田中会長、三村会長エレクトほか数名で姉妹クラブルンピニ RC(姉妹クラブ締結2002.11.8)訪問のときから始まりました。

2005年1月28日~29日の間、田中会長、吉岡国際奉仕委員長とともにチェンマイ市から200キロ、ミャンマー国境10キロのチェンマイ県 Banmainongbu School をタイのルンピニ RC の会員10数名と訪問し、現地の『水』事情を聞き、調査をいたしました。ロータリークラブ会員と教職員との真剣なプロジェクトの研究会が開催され、WCS の実行が決定されました。(この段階ではシンガポールのジュロンタウン RC との3クラブ合同事業)

校庭の片隅にポンプとは名ばかりの小さな井戸があるもののほとんど水を汲み上げることができず、雨季に25mプール程度の大きさの貯水池に雨水を貯め、それを学校用水に使用しているのが現状で、乾季には蒸発し、慢性的な水不足に悩まされている状況でした。



同校の水汲み上げポンプ (乾季には1日1時間しか稼動しない)と干上がった貯水池 (2005.1.29)

## 2. 経過

当初50m程度のボーリングで水が沸くであろうという想定のもと、各クラブ60万円3クラブ合計180万円の予算で Banmainongbu School だけの「合同ロータリー100周年記念事業」が提案されました。当初、わがクラブのWCSの予算はクラブ10万、地区からの同額補助10万の合計20万でしたが、田中会長の英断により2002～3年度に予算化されていた『ロータリー100周年事業積立金』を取り崩し参加することが理事会において決定されました。その後、シンガポールジュロンRCの口利きでロータリー100周年記念事業を模索していたオーストラリアのスカポロビーチRCが加わり「4クラブ合同のロータリー100周年事業」としての『水』にかかわる事業に広がりました。

途中、50mのボーリング段階で泥水しかわかないことが確認され、折角のプロジェクトであるので100mまで掘り下げることが決定され、豊富な水脈にたどり着いたようです。ルンピニRCの会員有志が役割を分担し、バンコクから600キロ離れたチェンマイに出向き、工事の進行のチェック、予算の確認、等を繰り返していただいたようです。

3月25日ルンピニRCの皆さんが我がクラブを訪問された段階で4月中には完成するという報告でしたが、地域の工事関係者の皆さんの事業趣旨のご理解も得られ、無償による労務の提供などもあって、PONG NAM RON WITTAYA School 及び BAAN BORHIN School での事業を加えることができたようです。

物価の差はあるとはいえ、ルンピニRCの会員の皆さんの労を惜しまぬ奉仕がなければ今回のプロジェクトは完成しなかったでしょう。ルンピニRCの会員の皆さんのこの事業にかける熱意には頭の下がる思いがいたしました。

## 3. プロジェクト

# WCS除幕式

2005年5月27日

私にとって生まれてはじめての海外一人旅、チェンマイ、チェンラーイの多くの生徒さん、保護者、学校関係者の皆さんと接しながら、言葉や国境を越えた感動をお土産に持ち帰ることができました。

ともかく写真でわれわれの『ロータリー100周年世界社会奉仕事業』完成式典をご覧ください。

### Banmainongbua (バンマイノープ) School

この学校はミャンマー国境に近く、生徒たちはミャンマーや中国雲南省などからの難民で、しかも国籍のない子供がほとんどだとのこと。国籍があると却って送還されるそうです。学年は小中学校までです。

この学校は40年前からあるのですが、当初はそういう事情で、授業はタイ語と中国語で行っていたそうです。子供たちの親は町まで出稼ぎに行っているの、ほとんど祖父祖母と毎日暮らしているようです。

**この学校では、井戸、給水塔、ろ過設備、手洗い場が寄贈されました。**



校庭にそびえる15mの給水塔



**4クラブ共同ロータリー100周年事業の表示板**

堺フェニクス RC	2640 地区	日本
ジュロン タウン RC	3310 地区	シンガポール
ルンピニ RC	3350 地区	タイ
スカボロ ビーチ RC	9450 地区	オーストラリア



**喜びの子供たち**



**給水塔とろ過機**



**出水式**



式典の途中突然、堺フェニクス RC 代表挨拶の指名があり、一瞬たじろぎましたが、度胸を決め、

「私は日本語しかしゃべれない。しかし、私は今、子供たちの喜びの笑顔を見て言葉を越え、国境を越えた感動を覚えている。4つのクラブの連携でロータリークラブならではの事業に参加できたことを誇りに思う。日本からここに着くまでは、もっと小さなポンプ井戸をイメージしてまいりました。この計画を実行してくださったルンピニ RC の皆さんありがとうございます。I am happy. 本日の感動を日本のクラブに持ち帰り報告できる幸せ感に浸っていることを皆さんにお伝えし私のご挨拶に代えさせていただきたい」

と日本語とぎこちない英語で伝え、ルンピニ RC のニコンさんの翻訳が終わると拍手がしばらく続き、ルンピニの会員さんから「いい挨拶」と握手攻め。涙の出そうな幸せ感でした。



**出水を喜ぶ子供たち**



記念植樹



掘削地のモニュメント(地下約 100mボーリング)



保護者の手作り飲茶で昼食会



子供たちは感謝の踊りを披露



生徒、保護者、出席者に配られたパンフレット(表・裏)

学校の先生の手によって作られたパンフレットで、ロータリー活動の説明、今回の事業の完成までの過程が写真を入れ説明されています。(上段左は前回の現地調査の写真、下段の写真は掘削塔などが載っています)

### PONG NAM RON WITTAYA (ポンナムロンウイタヤ) School

この学校には体の不自由な子供たちの学級もあり、補助具などを含め教育設備が不足しているとのことでした。

この学校では、「トイレ」と「ろ過設備」および「屋外集会場の拡張増築」が寄贈されました。



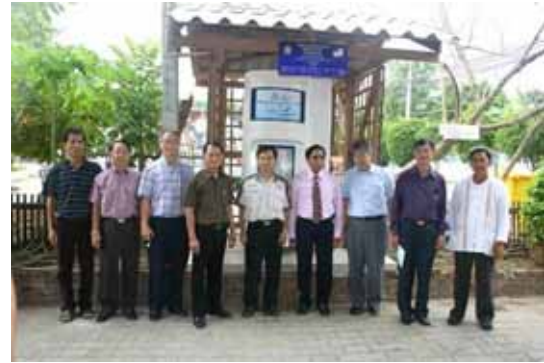
寄贈のトイレ



トイレの寄贈クラブ名プレート



ろ過設備



寄贈のろ過機の前で記念撮影



屋外集会場増築



工事関係者を交え事業報告会



除幕式



記念植樹

## BAAN BORHIN (バンボーイン) School

この学校では何人かの日本人の子どもにもお会いしました。

**この学校には、子供たちの飲料水確保のため、整水ろ過機が寄贈されました。**

私もこのろ過機から出た水で作られた緑茶(砂糖入り)をいただいております。

以上、3校における事業が約1年をかけて完成いたしました。物価の違いがあるとは言え、4クラブの拠出金が約300万円、その中でこれだけのプロジェクトを完成させるにはルンピニRC会員の皆さんの労を惜しまぬ努力があったからだろうと思われます。会員が何十回と現地に足を運び、工事関係者との価格交渉、設計打ち合わせ、工事管理をされたようで、それは各人の自弁で行われたとっておられました。たった1日、チェンマイから往復400キロのドライブにバテを感じた私は少し恥ずかしくなった次第です。

現地に参加されたルンピニRCの会員の皆さんは異口同音に「SERVICE Above Self」と言われ、「**現地の人と一緒に奉仕を考え、実行することができるからロータリーは楽しいすばらしい**」と言われていました。

記念式典の夜、沼の上の庶民のレストランで謝恩会が開かれ、村長さん、校長先生の参加する中、私に「**今回の100周年記念事業に調査の段階から会員各位が使った旅費、宿泊費、労力を計算すれば、今回の各クラブ拠出額の何倍かに上る。しかし、これをすることがロータリアンの奉仕である。各個人が使ったお金を寄付金に加えお金を各学校なり公的機関などに寄付するほうがもっと大きなことができるかもしれない『楽』である、しかし今日の喜びはない。調査し、地域の人々と語り合い、何が求められているかを勉強し、ひとつひとつ解決に向かって奉仕し続けることがロータリアンの奉仕である」「奉仕があるから退会者もなく会員が増えるのだ」とルンピニRCの会員の皆さんは話されましたのは印象的でした。**